

---

# 公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 2022 年度事業報告

---

2023 年 6 月 8 日

公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 理事会

2023 年 6 月 24 日

公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 評議員会

## 【1】わたしたちをとりまく情勢

2020 年 1 月から始まり、3 年以上にわたって感染拡大の波を繰り返しているコロナ感染症は、日本ととりわけ大阪の医療・介護・公衆衛生の脆弱性を露呈させています。大阪では「未治療死」という言葉さえ生まれ、十分な検査や治療を受けることができずお亡くなりになる事例がありました。

その中であって、私たちは「まず診る」「援助する」「なんとかする」の立場に立って、全事業所で役職員が医師会や救急隊など地域の機関と連携し、コロナ感染症に立ち向かいました。

コロナ禍で噴出した住民の貧困と格差の拡大は、暮らしを支える社会的基盤の不安定さや生活困窮に対応すべき社会保障の脆弱さによってもたらされています。そしてこのことが国民の受療権・健康権を大きく脅かしています。

大阪はコロナ感染関連の死亡者数が日本一多い状況となっています。病床削減や保健所機能の弱体化を放置していることなどが要因です。また、高すぎる国保料や介護保険料が大きな負担となっており、無保険者の受診や受診困難事例が相次いでいます。また大阪は全国一の不健康都市となっており、その一因に貧困世帯の急増や特定健診・がん検診受診率の低さがあげられます。

私たちは「無差別・平等の医療と介護」の事業と地域の全ての人を対象にした「地域健康増進事業」を公益目的としている法人として、地域住民のいのち・健康を守る活動をますます強めていかなければなりません。

## 【2】法人の役職員の力を結集し、民医連・公益法人の理念実現をめざして医療介護の複合体としてめざした取り組み

2022 年度は、公益財団法人として民医連綱領と定款に定めた理念の実現をめざした活動を進めること。法人の中長期計画「淀協 80 プラン（2022～2030）」の決定と実践に足を踏み出す年と位置づけ、事業活動を行いました。

80 プランでは「地域に深く根ざし、『無差別・平等』をつらぬき、すべての人びとのいのちと健康を守り、ともに幸せを生み出す民医連の公益法人として輝こう」「地域から信頼され、地域とともに歩む淀協職員として、人権感覚を磨き、専門性と総合性をもつ民医連の職員集団として成長しよう」「淀協の新しい未来を創る事業の成功に向け、確かな経営・財政基盤をつくりあげ、前進しよう」の 3 つを柱に中長期の事業計画を定め、その初年度として、医療・介護の複合体として、すべての事業所がコロナ対応をはじめ、無料低額診療や相談活動などの無差別・平等の医療・介護事業に取り組みました。

職員育成では、この間の医師養成の実績の評価の上に、初期研修の受け入れ定数（現行 2 名）から 1 名

増が認められました。

経営到達として、コロナ補助金を除いてもほぼ経常利益予算に届く到達となり、償却前利益で80プランで描いた5億円の目標を超過達成しました。しかし、介護事業の黒字化については、課題を残し、次年度の課題ともなっています。

### 【3】無差別・平等の医療・介護事業

#### (1)患者・利用者数の動向

西淀病院(218床)は、入院件数5,955件、前年差250件増、延べ患者数78,770人、前年差581人増、新入院件数は3,082件、前年差19件増となりました。1日平均は215.8人、前年差1.6人増でした。日当円は43,423円、前年比で1,454円増となりました。西淀病院は新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、大阪府からの病床確保の要請に応え、前年度に新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ医療機関として8床に増やしました。救急搬送受け入れは、2,858台、前年比で339台増となりました。救急車応需率は、73.7%。救急車受け入れからの入院は37.6%でした。

外来は件数のべ患者数ともに前年比で増加しました。外来件数143,851件で前年差13,408件増、うち在宅管理件数は10,776件で前年差601件増、のべ患者数は148,802名で前年差17,903名増でした。

透析患者は月平均のべ患者数は872名で前年差20名減でした。

介護老人保健施設よどの里(短期入所療介護含み100)は、延32,736人(占床率89.7%)、予算目標差1,574人減(95%)、前年度比では1,151人減(96.6%)と予算・前年ともに未達となりました。7月と年末年始の2回クラスターが発生した影響がありました。看護小規模多機能らくらく(定員29人)は、延登録数294人(月平均24.5)で予算差18人減(94.2%)で予算未達でしたが、前年度比+3人(月平均+0.2)でわずかに改善しました。訪問看護ステーション(5ステーション、1サテライト)は、延訪問数30,046人で予算差2581人増(109%)前年差1,050人増(103.6%)、予算前年ともに超過となり、2年連続で前年比改善しました。訪問介護(3事業所)は、延訪問回数29,309人で予算差388人減、(97.3%)前年差4,783人減(95.9%)、予算前年比未達。ヘルパーの減員が要因です。通所介護(3事業所 定員65名)は、延16,030人で予算差302人増(101.9%)、前年差628人増(104.1%)と予算前年ともに超過しました。認知症対応型通所介護(3事業所 定員32名)は、延6,400人で予算差90人増(101.4%)前年差606人減(91.4%)で予算超過も前年比未達。通所リハビリテーション(2事業所 定員69名)は、延11,892人で予算差1,353人減(89.8%)、前年差1,586人減(88.2%)で予算前年比ともに未達。よどの里の入所でクラスターが発生したことにより事業縮小したことが影響しています。訪問リハビリテーション(1事業所)はのべ訪問数3,799回で予算差342回減、前年差170回増でした。

居宅介護支援事業(6事業所)は、延介護プラン数は、9,135件、前年差160件減(97.7%)と前年未達となりました。

#### (2)無料・低額診療事業

2022年度の無料・低額診療の実績は、延べ47,054人(減免患者+生活保護患者※無低率(減免患者数)は減免患者+生活保護患者でカウントされる。2021年度実績は45,832人)、医科無低率15.7%、老人保健施設21.9%、法人全体で16.1%、金額で3,143万円の減免を行いました。また、同じく無低診療事業を実施している済生会病院などとの連携を深めました。しかし、まだ無料低額診療事業の認知度

が低く、経済的理由で受診に結びついていない多くの人への周知が必要です。

### (3)無差別・平等の医療事業

2023年3月31日現在、法人の医療事業は1病院、10診療所、1社会医学研究所となっています。

西淀病院は「断らない」、24時間365日入院、救急・急患を受け入れてきました。「いのちの平等」の立場から一切、差額ベッド代金は徴収していません。外来診療(各専門外来、救急外来、総合外来、禁煙外来、物忘れ外来、生活習慣病外来等含む)、診療所事業、リハビリテーション、血液透析、健診・相談活動(福島原発避難者、アスペクト被害者、水俣病検診等及び医療・生活相談活動、無料法律相談を含む、在宅医療・退院支援、生活困期のために受診を控えている人たちへの無料・低額診療事業を通じて、すべての地域住民を対象に、医療を受ける権利である受療権を守る事業をすすめてきました。また、地元での防災拠点として医療、福祉避難活動を実施してきました。コロナ感染拡大の中で、発熱外来の開設、新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れ医療機関として、大阪府からの病床の確保要請に応え、対応を強めてきました。

全医科事業所は、経済的理由による受診困難な地域住民への相談活動をすすめるとともに、社会福祉法にもとづく無料・低額診療事業を実施してきました。外来は、一般、専門外来の他、24時間365日いつでも対応する救急外来、総合外来、禁煙外来、物忘れ外来、生活習慣病外来を実施し、年間143,851件、148,802人の延患者の診療を実施しました。公害患者、大気汚染患者の治療、リハビリテーション治療の要求も高く患者を受け入れてきました。また、10の診療所で在宅医療にとりくみ在宅管理患者が増加しつづけています。月平均898件の在宅管理となり、地域からの要求はさらに広がりを見せています。淀川区で在宅往診相談センターの開設を行いました。発熱外来に積極的に取り組み、病院及び10の診療所で行い、のべで11,658名の対応を行いました。「ワクチン難民を生み出さない」コロナワクチン接種にも積極的に取り組み、のべ21,312回の到達となりました。

### (4)無差別・平等の介護事業

2023年3月現在、介護事業は25介護事業所です。介護老人保健施設、看護小規模多機能施設、訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、認知症デイサービス、通所デイサービス、通所デイケア、訪問リハビリと6つの居宅介護支援事業所などの介護事業所を実施し、介護を必要とする地域住民の介護を受ける権利を守る事業を行ってきました。介護老人保健施設よどの里(100・ショートステイ・デイケア・訪問リハビリ)では、在宅強化型老健として超強化型を取得し、地域の医療、介護連携の要の役割を果たし、医療と介護との切れ目ない連携と24時間365日対応を重視し、利用者、家族の事情を考慮し対応してきました。また、無料・低額診療事業を実施し、生活困窮者の利用料の軽減をはかる事業を行ってきました。

在宅総合センターらくらくは、24時間365日対応型の在宅を支える看護小規模多機能施設として通所、泊り(1日9人の臨時的泊り等も対応)、夜間も対応の訪問看護、訪問介護、相談、助言等の機能を備えています。要支援I、Iが介護保険制度から外れる状況の中で、介護から排除される方がでないようサービスを提供していくとともに、生活支援事業も担ってきました。また、地域包括支援センター、医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、行政機関等と地域連携を重視してきました。

## (5)無差別・平等の障害福祉サービス事業及び地域生活支援事業

誰も置き去りにされない社会への貢献事業として「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律にもとづく障害福祉サービス事業及び地域生活支援事業」、具体的には障がい者の自立支援のための居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援事業、サービス計画相談事業、自立支援医療等をすすめてきました。

## 【4】健康増進事業

誰もが安心して健康で暮らせるまちづくりを目的に、西淀病院(日本で18番目、大阪府下で2番目)はじめ、法人内全ての事業所(診療所・介護事業所グループ・日本で62番目)が、WHO(世界保健機関)HPH(Health Promoting Hospital & Health Services:地域健康増進事業所)の認証を受け、地域のすべての住民を対象に、保健相談員成や健康講座、健康教室、健康診断・健康指導など保健予防・健康増進活動をすすめてきました。コロナ感染拡大で活動の制限をせざるを得ない状況がありましたが、感染対策を行いつつ健康友の会や地域の他の団体などと協力、連携して健康塾、防煙教室、各種健康講座、健康教室など活動可能な条件を工夫し、取り組みました。西淀川区・淀川区各小学校高学年対象の「防煙教室」を要請に応え再開し2022年度は年間6か所で開催しました。(2019年度は14校で開校のべ16校)。

コロナ禍での生活、健康支援活動として、フードバンク(食料無料支援・医療・健康相談、生活・法律相談)に地域の他団体と協力をすすめてきました。今年度約2,035名の方が利用されており、地域の中の助け合い事業として前進しています。2022年度は、開催行政区を広げるとともに、地域密着の小画工単位の開催を増やしました。

## 【5】その他の公益事業

### (1)職員育成

コロナ禍、実習が中止となる中ででしたが、可能な条件の中で実習受け入れを行い、医師をはじめ医療従事者に対する研修教育及び医学生、看護学生の実習受け入れました。医学生実習は38人、看護学生実習は383人受け入れました。高校生1日医師体験、高校生1日看護体験はコロナ拡大により、実施できませんでした。

西淀病院は、厚労省医師臨床研修制度による基幹型臨床研修病院としての指定を受け、2022年度もフルマッチし初期研修にとりくんでいます。後期研修は、総合診療医養成プログラムにもとづき、総合診療能力を有する医師養成を目的に西淀病院及び診療所で行うことができました。また、「大阪家庭医療センター」の基幹病院及び診療所として総合診療医養成を行ってきました。日本専門医機構による新専門領域である総合診療専門医機関として、「西淀病院総合診療専門研修プログラム」での研修をすすめました。

### (2)調査・研究に関する事業

大阪社会医学研究所は、労働起因性疾患の職業病外来、職業病検診、労働環境調査、産業医活動及び調査・研究・資料収集事業にとりくんできました。

コロナ感染拡大で、活動の制限がありますが、社会医学的な医療課題への寄与として、広島・長崎の被爆者の健診・相談活動、水俣病法にもとづく水俣病掘り起し検診・相談活動、アスペクト被害者検

診・相談活動、福島第一原発事故による避難者検診・相談活動等にとりくむとともに、高齢者「熱中症」調査・相談、経済的理由による「手遅れ死亡」調査等、現代社会に表出する「格差と貧困」問題へのアウトリーチ、糖尿病の負担割合、防煙教室、調査・研究・資料収集にとりくみました。

## 【6】淀協80周年プランの実践を進めよう

2022年度は、「淀協80プラン」を法人として決定し、計画の中のひとつの事業である茨木診療所の新築工事の具体化にふみ出しました。新診療所の設計段階から健康友の会会員も交えて建設委員会をつくり、幅広い意見を集約しました。また、地域行動にも法人あげて取り組み、地域から寄付金や協同基金が多数寄せられるなど信頼と期待の高さがうかがえます。

「淀協80プラン」では、事業計画として西淀病院・よどの里・相川診療所の法人内事業所のリニューアルが計画されており、大規模な投資が必要です。成功のためには、必要な財務基盤を作っていく必要があります。

## 【7】2022年度決算概況

(別紙)

## 【8】法人組織の概況

(1) 理事会開催状況 別紙

(2) 組織図 別紙

(3) 事業所・施設の状況

〈医療事業〉

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| ・西淀病院 (218床)    | 大阪市西淀川区野里 3-5-22  |
| 西淀病院附属大阪社会医学研究所 | 大阪市西淀川区野里 3-5-22  |
| ・のざと診療所         | 大阪市西淀川区野里 3-5-24  |
| ・姫島診療所          | 大阪市西淀川区姫島 2-13-20 |
| ・千北診療所          | 大阪市西淀川区大和田 5-5-3  |
| ・ファミリークリニックなごみ  | 大阪市淀川区加島 4-2-17   |
| ・ファミリークリニックあい   | 大阪市淀川区西三国 1-3-29  |
| ・此花診療所          | 大阪市此花区春日出北 1-1-25 |
| ・伝法高見診療所        | 大阪市此花区高見 2-5-9    |
| ・西島診療所          | 大阪市此花区西島 4-2-3    |
| ・相川診療所          | 吹田市南高浜町 3-2-19    |
| ・茨木診療所          | 茨木市元町 4-1-6       |

〈介護福祉事業〉

《1》介護老人保健施設よどの里 (100床) 大阪市西淀川区姫島 2-13-20

短期入所療養介護、通所リハビリテーション、訪問リハビリ

《2》 看護小規模多機能型居宅介護らくらく	大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
《3》 訪問看護ステーションコスモス（サテライトあい併設）	大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
《4》 訪問看護ステーションえがお	大阪市福島区海老江 7-3-16
《5》 淀協ホームヘルプステーションみてじま（障がい併設）	大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
《6》 ディサービスセンターみてじま	大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
《7》 淀協ケアプランセンター	大阪市西淀川区野里 3-6-8
《8》 ケアプランセンターみてじま	大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
《9》 ケアプランセンターあい	大阪市淀川区西三国 1-3-29
《10》 ディサービスセンター安住	大阪市西淀川区竹島 3-2-12
《11》 ディサービスくつぬぎハウス	大阪市西淀川区姫島 2-13
《12》 ふれあいデイサービスこのはな	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《13》 此花診療所指定居宅介護支援事業所	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《14》 訪問看護ステーションさくら	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《15》 ヘルパーステーションさくら（障がい併設）	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《16》 訪問看護ステーションあいかわ	吹田市南高浜町 3-2-19
《17》 ヘルパーステーションあいかわ（障がい併設）	吹田市南高浜町 3-2-19
《18》 相川ケアプランセンター	吹田市南高浜町 3-2-19
《19》 相川通所リハビリテーション	吹田市南高浜町 3-2-19
《20》 デイサービスセンターあいかわ	吹田市南高浜町 3-2-19
《21》 相川デイサービスセンターあいあい	吹田市昭和町 1-3-16
《22》 茨木診療所居宅介護支援事業所	茨木市元町 4-1-6
《23》 茨木訪問看護ステーション「さくら」	茨木市元町 4-1-6
《24》 よどきょう相談支援事業所（障がい者ケアプラン）	大阪市西淀川区御幣島 4-3-22

- |           |    |
|-----------|----|
| (4) 役員の状況 | 別紙 |
| (5) 職員数   | 別紙 |
| (6) 共同組織  | 別紙 |
| (7) その他   |    |

以上